第 50 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミⅡA	チーム名	多様性社会
タイトル	ファイナンシャル・リテラシー教育は、未来を変えるのか？		
テーマ群	b)財政・金融		
メンバー	[redacted]		
研究計画内容	**【研究の背景と目的】** 2020 年 3 月末の日本銀行調査統計局によると、家計の金融資産構成において金融商品の保有割合は、日本が 14.4%であるのに対して、ユーロエリアでは 27.9%、アメリカでは 50.8%となっていることが得られた。このデータから私たちは、日本と海外の資産運用に対する意識の違いがなぜ生じているのかということに疑問を持った。その疑問に対する仮説として、日本において「金融に関する教育が浸透していないこと」「保守的な国民性を持っていること」「国や企業の金銭的援助があること」の 3 点が挙げられた。しかしながら、「保守的な国民性を持っていること」「国や企業の金銭的援助があること」を早急に改善することは、極めて困難であると考えられる。そのため、今回は、「金融に関する教育＝ファイナンシャルリテラシー教育」に重点を置きたい。ファイナンシャルリテラシー教育とは、「お金に対する理解・貯蓄・運用というような知識全般を養う教育のこと」である。この教育の研究を行うと、上記に述べた資産運用に対する意識の向上に繋がり、最適な消費行動の一助になると考えた。 **【研究内容・期待される成果】** 日本と海外の資産運用に対する意識の違いはなぜなのかということを教育の観点から考えたい。まず、研究の土台として 4 つの論点「ファイナンシャルリテラシーの意義」「国外の比較」「国外の対応（教育策）」「日本の現状」を挙げ、分析を行う。それらから見える新たな論点があれば、そこを掘り下げ日本のファイナンシャルリテラシーのあり方を明らかにする。そうすることで、お金に対する教養や価値観を変え、人々の生活の質を向上させることができる。そして、2017 年に OECD が定義した「幸福で充実した人生」に繋がるのではないかと考える。		